

教育委員コラム

No. 40

2024/12

発行／弟子屈町教育委員会
 教育長 岩原 勝行
 教育長職務代理者 金井 秀明
 委員 菅原 誓之
 委員 吉田 一徳
 委員 宮田 昇子

函館の街並み



教育長職務代理者 金井 秀明

10月末に会議があり函館に行ってきました。初代五稜郭タワーだった時代に一度行ったことがありますが、それ以来の訪問。今回は一大決心をして自家用車で行きました。

高速道路を走って行くと、ニュースや天気予報で見たことのある町名が次々と現れてきます。日本の代表的な広葉樹「ブナ」の北限地である黒松内町が、思ったより北にあることも分かりました。有珠山や昭和新山が見える有珠山パーキングエリアでは雄大な景色を一望でき、遠くに駒ヶ岳も眺望できます。かなり古い人でないと分からない、由利徹氏のギャグ「オシャマンベ！」の長万部町を通り、工事のため一時高速を降りました。おかげで北海道新幹線の工事箇所を見ることができました。

大沼国定公園も見ましたが、大沼の中に島が点在しており、屈斜路湖とは違った景観を楽しめました。屈斜路湖といえば和琴半島。規模、海と湖の違いはありますが、函館と成り立ちは似ています。ともに「陸繋島」と呼ばれる成り立ちで、火山などでできた島が長い年月をかけて陸と繋がってできた地形。英語では「Tombolo(トンボロ)」と言います。豊かな自然も残っており、1964(昭和39)年には鳥獣保護区特別保護地区に指定されました。【注1】この地形のおかげで、函館山を背にして砂洲に発展。函館が「坂の街」と言われるゆえんです。

もう一つ函館といえば「異国情緒あふれる街」との表現もあります。1859(安政6)年、長崎、横浜と共に函館は日本最初の国際貿易港として開港されました。長崎の出島方式と違い、函館は外国人が市中に住むようになったため異国情緒が残ったようです。【注2】街中には石畳の道路がたくさんあります。「石畳がないと春先は上れない」「人の手でよく敷いたものだ」と感心しながら、息を切らして坂を上りました。長崎にも訪れたことがあり、やはり坂の街ですが、坂というよりも階段が多く、すり鉢の中に居るような感じがしました。

両市とも坂の上には多くの教会があります。開港したときに入ってきた国による違いが見られるようで、函館は1858(安政5)年にロシア初代領事ゴシケーヴィチが着任したことから、ロシア正教会の色合いを見ることができます。【注3】長崎は1550(天文19)年、カトリック教会男子修道会・イエズス会のフランシスコ・ザビエルが着任、布教したこともあり、カトリック教会が多いようです。【注4】いずれにせよ見事な建築で、旧領事館なども見応えのある建物でした。

函館は活イカが有名ですが、訪れた時期はイカの水揚げ量がなく、活イカの造りが2,980円などと高く手が出ません。塩ラーメンも多くの外国人観光客で店があふれ、並ぶのが苦手な自分は食べられませんでした。食べ物に釣られた訳ではありませんが、また訪れたい街でした。



【注1】 浪漫函館 函館市商工観光部観光振興室観光課発行 pp10 2007

【注2】 <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/>

【注3】 https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014012800389/file_contents/2014012800389_hk_docs_2014012800389_files_betten1.pdf

【注4】 <https://www.city.nagasaki.lg.jp/nagazine/smart/t201204.html>

川湯ばやしの起源…明神ばやしを鑑賞

教育長 岩原 勝行

川湯ばやしの起源は、今から53年前の1971(昭和46)年に福井県織田町(現在の越前町)から移入された「明神ばやし」が原型となっています。

今回、川湯ばやしの町文化財指定に向けた調査研修のため福井県を訪問しました。明神ばやしが奉納される劔神社への参拝や保存会との意見交換を行い、織田地区文化祭で行われた明神ばやしの演奏を見てきました。

江戸時代から300年以上続く歴史ある郷土芸能を間近に鑑賞する機会を得て、川湯ばやしの保存・振興を図る必要性を改めて感じました。



小・中学校学習発表会

教育長職務代理者 金井 秀明



10月、11月は小・中学校の学習発表会の季節です。各学校で決められたテーマに沿って発表会が行われました。

小規模校では1、2年生のあいさつから始まり、全校合唱、劇、器楽合奏、川湯ばやし、よさこい、自分たちで調べて劇仕立てにした総合学習発表、作品展示など、大変見応えのある発表会。保護者や地域の方もたくさん詰めかけ、A L Tの先生方も来ていました。今年の発表会で私が見た限り、英語が入った発表は残念ながらありませんでした。(見に行けない学校もありましたので全くとは言えませんが)劇中の一言や自己紹介など、英語をワンフレーズでも入れればA L Tの先生方も嬉しかったのではと思いました。

中心市街地複合施設整備中

教育委員 菅原 誓之



我が家の窓から、旧営林署跡地(コラーレ)が正面に見えます。9月19日頃から樹木の伐採作業が始まり、あっという間に更地になりました。複合施設建設に向けた工事が進んでいます。毎日たくさんの重機が稼働し、作業をずっと見ていると飽きないものです。

新施設には、教育委員会が所管する図書館やプールも入ります。どんな施設が出来上がるか、窓越しの毎日を楽しみな今日この頃です。

AQUARIUM×ART atoa

教育委員 吉田 一徳

神戸市にあるAQUARIUM×ART atoa(アトア)を見学してきました。この水族館はさほど大きくもなく、目玉となる魚もいないのですが、水槽が置かれている空間そのものがアートになっており、市の中心部に近いこともあって人気の観光施設です。

この中に「探求の室」という展示ゾーンがあります。魚の展示に加えて2,500冊の書籍が置いてあり、魚を眺めつつ読書ができる図書館のような空間。生物関連の書籍のみですが、児童書からマニアックな本まで幅広く揃えられていて、生き物好きにとっては至福の空間と言えるでしょう。

他にも「精霊の森」や「和と灯の間」などの展示ゾーンがあり、それぞれコンセプトが充実しているので、かなり楽しめる施設でした。



ふるさと給食で地域の食材に思いを馳せる

教育委員 宮田 昇子

地元食材の魅力に触れてもらおうと年に数回、摩周メロンや弟子屈ポークなどを使った「ふるさと給食」が町内児童・生徒に提供されています。11月25日には摩周和牛のハヤシライスが登場しました。

摩周和牛は同改良組合から寄贈されたもの。2013年、本町の姉妹都市・鹿児島県日置市から贈られた繁殖用肉牛「かねはる」号で、2012年には鹿児島県畜産共進会でグランドチャンピオンに輝いています。繁殖牛を引退するにあたり、その背景も踏まえて町の子どもたちに味わってほしいとの同組合の皆さんの強い思いから58kgの和牛が提供されました。

子どもたちは、吉田一徳組合長から説明を受けた後、おいしそうにハヤシライスを頬張っていました。



「探究学習」をご存じでしょうか。学習指導要領改定により、高校で「総合的な探究の時間」が必修となりました。生徒が自ら課題を立て、情報を集めて分析し、まとめを発表するという学びを通して、主体性、実行力、生きる力を養うものです。新学習指導要領では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を育むことを目標としていて、探究学習はその手段の一つ。大学入試におけるセンター試験が共通テストに変わったのも、基礎学力に加えてそうした力を見るためでしょう。本町の小・中学校の総合学習、高校の探究学習は地域探究が中心ですが、有意義な学びが得られ、その結果が進路達成に繋がるといいなと思います。(宮田)

編集後記